

2011年6月21日
号外民主党プレス民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話 03-3595-9988(代表)
メール press@dpj.or.jp
URL http://www.dpj.or.jp

NO. 10 神尾てるあき

てるてるネットワーク

各自治体が放射線量の計測を始める

東日本大震災から100日が経過しました。江戸川区においても、今回の大震災で直面した課題を検証し、緊急対策の必要がある33項目をまとめた「江戸川区緊急災害対策」が発表されました。この対策を実施するために必要な予算約10億円は、6月28日から始まる区議会定例会において補正予算案として出される予定です。江戸川区では大震災により清新町地域で液状化現象が発生し、多くの家屋が損傷しました。また、緊急避難場所の確保やその安全性の面でも多くの課題を残しました。これから区議会においてしっかりとした問題意識を持って議論がなされることを期待します。夏の遊泳シーズンに向けて、全国の海や湖や川などの水浴場で遊泳ができるかどうかの判定基準を示すため、環境省は水浴場の放射線物質濃度に関する指針値や調査方法を月内に決めて、各自治体に通知する方針を打ち出しました。各自治体レベルでも、すでに各区独自で放射線量の計測を始めることが決まりました。例えば、足立区では子どもへの放射線の影響を知りたいという区民の強い要望を受けて、6月下旬から1ヶ月程かけて、すべての保育園・幼稚園・小中学校・児童館・公園を対象に、区内752ヶ所で放射線量を計測します。墨田区でも区内全域の公園・保育園・学校などを含め239ヶ所で放射線量の測定し、区のホームページで結果を公表します。江東区でも、まず区内の土壌中の放射線量の測定を実施し、その後、学校プールにおける水中の放射線量を測定することとしました。測定結果は区報や区ホームページで随時公表されます。葛飾区でも同様の動きがあり、東京都から貸与される小型測定器を用いて、区内の公立小・中学校、公・私立幼稚園、公・私立保育園での空間放射線量の測定を始めています。測定結果は、毎週月曜日と木曜日に区ホームページで公表しています。このように各自治体が独自で放射線量の計測を始める中、江戸川区は当面は独自測定を実施せず、東京都のデータを参考に区内の放射線量を判断するとしています。これまで東京都内の放射線量の計測は、新宿区にある東京都健康安全研究センターで実施されてきました。この測定によって、福島第一原子力発電所の事故後の大気、塵・雨などの降下物、水道水の放射線量が判明し、いずれの測定結果も国の基準と照合して、健康への影響がない数値とされています。これに加えて、東京都は6月15日から都内100ヶ所での放射線量の測定を始めました。ここには江戸川区4ヶ所での測定も含まれています。江戸川区は、放射線の影響を受けやすい子どもが東京23区で一番多い区です。私も子どもを持つ父親として、子ども達にどのような影響が出る可能性があるのか心配です。そう考えると、現状の対策のみで区民の安心安全を守っていけるのか疑問です。放射線量の測定・公表さえしていれば、それで良いというものでもありません。大切なのは測定後の対応です。仮に、高い数値が出た場合にどういった対策を採るのか？その点が十分に示されていません。そこまでの対策を用意して初めて、放射線量の測定・公表も意味のあるものになるのではないのでしょうか？

